

協議テーマ：【聞ける・聴ける子どもの育成】

【1 グループ】

＜悩みや課題＞保育所

- ・返事ができない。（4・5歳でも）
- ・返事をしても、顔を見ない。（少人数でも）
- ・「今なんて言った？」と聞き返して、確認している状態。
- ・1対1なら聞ける。
- ・最後まで聞けない。話せない。⇒保護者がすべてやってしまう。
- ・集中力がない。やめてということがやめられない。
- ・人との関わりが少ない。
- ・「ながら」での話しかけや答えるのが日常になっている。

＜悩みや課題＞小学校

- ・集団では聞けず、1対1対応になってしまう。
- ・話し方（単語が多い。結論・理由が少ない）の指導が必要。
- ・自分事として聞けない。
- ・相手を見て聞けない。

＜悩みや課題＞中学校

- 部活などで指導しているため、比較的聞けるようになっている。
- ・相手を見て聞けない。
- ・話をしている時に違うことをしている。
- ・最後まで聞けない。

＜今後の取組＞

- 保) 言葉の獲得のため、話すことや絵本と触れ合う機会を増やす。
- 保) 興味が持てる話し方を心がける。
- 保) 最後までじっくりと話を聞いてあげる。
- 保) 聞ける環境を整える。聞ける姿勢を意識づける。（相手の顔を見させる）
- 保) 手遊びの注意。問い返しをする。（指示の確認）
- 保) 友だちの言葉にも寄り添える手立てを行う。
- 小) 視覚的支援を行う。
- 小) 反応する指導。
- 中) 聞くことの理解学習をする。
- 中) 聴き方「あいうえお」と保護者への周知。

＜共通点＞

- ・何を（社会的自立、将来像、学力等）大切にしているか保護者へも伝える。
- ・仲間との信頼関係をより強いものにしていく。



【2グループ】

<大月の子どもたちの現状>

○絵本好きな子どもが多く、読んでいる間、じっくりと聞ける。

<悩み・課題>：保育所

- ・全体に話した時に聞けていない子どもがいる。
- ・聞く姿（目を見て）、話す姿（相手を見て）

<悩み・課題>：小学校

- ・聞くふりをしていて聴けていない。
- ・最後まで待てない。（割り込んでしまう）
- ・あいさつ

<悩み・課題>：中学校

- ・姿勢はいいが内容が入っていない。（指示を何度も確認している）



<今後の取組>：保育所・小学校・中学校

- ・絵本の読み聞かせの時間を大切にする。
- ・友だちの話聞く機会を作っている。
- ・大きいクラスの場合、友だちの話聞く時間を作る。
- ・親に子どもの話を聞いてもらう。
- ・保育者も子どもの話をよく聞く。
- ・何をどのように聞かせるか？伝わっていないときにどうするか？聞く人の立場で話したり、聞かせるための環境を整えたりする。
- ・目を見て話す。
- ・気持ちに寄り添いながら聞く。

<共通点>

- ・保小中みんなのつながり（互いのコミュニケーション）で取組む。
- ・話術をアップする。オーバーアクションで話す。
- ・積み重ねを行う。
- ・子ども同士の関わり。
- ・保護者の協力を呼びかける。

↓

<目指す子ども像を共有>

- ・相手（発言者）を見て聞ける子。
- ・発言を反応しながら（うなずき、拍手）聞く子。発言を認める子。
- ・話を始めると静かになりできていない友だちに声がけを行う子。



【3 グループ】

<悩みや課題>：保育所

- 絵本は大好きで、読んでいる時は聞いている。
- ・聞こえていても、無視をしてしまう子どもがいる。
- ・聞く姿勢が崩れて、落ち着きがなくなっている。
- ・全体で話すときに、伝えたいことを言ってもなかなか伝わらない。
- ・一回言ってもできないことが多い。(同じことを何度も言わなければならない)

↑ (学校から保育所へ望むことは?)

- ・相手を尊重する気持ちを大切にする。
- ・食生活も大事なことなので、食育も大切にする。
- 今回のように「聞く・聴く」ことを保小中で連携して、情報共有をいつもしていきたい。



<悩みや課題>：小学校

- ・「話しますよ。」と声をかけるが、なかなか前を向けぬ児童がいる。
- ・初めは聞けていても、だんだんと崩れていく。
- ・姿勢は悪くても、聞けている子どももいる。(その逆もある)
- ・友だちの考え(発表)への関心が薄い。

<悩みや課題>：中学校

- 今年の子どもたちはよく聞けていると感じる。
- ・返事は「はい。」とできるが、「先生、何でしたか?」とすぐに聞いてくる。
- ・本当に聞けているのか分からない時がある。
- ・聞くことを理解できていないように思う。
- ・保護者も家庭で話をしっかりと聞いてくれるように啓発が必要である。

<今後の取組>

- 保) 活動的な遊びと静かな遊びをつなげていく。
- 保) 話を聞いてほしいときは、言葉に強弱をつけて話していく。
- 保) 自分たちが子どもの話をしっかりと聞き、寄り添うようにする。
- 小) 小さい時は、習慣をつけることを大切にする。
- 小) 高学年からは、自分事として考えさせる。
- 小) 姿勢を直す指導。相手の顔(目)を見て理由などを伝えさせる。大切さを聞かせる。
- 中) 大人が子どもの声に耳と心を傾ける。

<共通点>

- ・「話を聞いてもらえてうれしい!」という気持ちを育てる。
- ・家庭でも一緒にいる時間のせめて数分でも子どもと交流する時間を取ってもらいたい。
- ・「心を育てる」ことが大切。



【4 グループ】

<子どもの現状>

- 優しく、明るくて、素直な子どもが多い。
- ・行動力が無い。

<悩みや課題>：保育所・小学校・中学校

- ・聞くための場面では静かに聞いているが、理解はできていないことが多い。
- ・マイペースな子どもが多い。
- ・名前を呼ばないと聞けない。
- ・顔を見て聞いているいない。
- ・単語での会話が多いため、聞くまでに至らない。
- ・聞くことがどういうことかを理解するには時間がかかる。

<今後の取組・共通点>

- ・読み聞かせをする。
- ・タイマーを使うなど、視覚支援を行う。
- ・見通しを持って話し、興味を持たせる。
- ・あいさつを大切にす。
- ・体を向けて聞くなど、態度の面でも聞く指導を行う。
- ・言葉による表現力を高める。
- ・聞く側の態度も大切にす。
- ・他者意識を持った行動を心がけさせる。(大人も)
- ・大人側の対応に何より気をつける。



【5グループ】

<子どもの現状>

○人懐っこく、子どもらしい。

○素朴で、素直な子どもが多い。

- ・異年齢での育ち合いができています。
- ・楽しみを見つけて行動している。
- ・好きなことに打ち込んでいる。

<悩みや課題>：保育所・小学校・中学校

- ・関わることの楽しさを実感できていない。
- ・テレビやゲームなどが溢れすぎている。
- ・他者への興味が無い。⇒自分中心になっている。
- ・聞こえていても反応がない。
- ・姿勢が悪く、聞くスタンスができていない。
- ・集中力がなく、手遊びしながらになっている。
- ・生活の乱れも影響しているように感じる。

<今後の取組・共通点>

- ・話す人の方へ体を向けて聞く。(聞く姿勢の徹底)
- ・早寝・早起き・朝ごはん運動。(基本的な生活習慣の定着)
- ・子どもの顔を見て、話を聞く。⇒家庭への働きかけを行う。
- ・いろいろな環境を与える。(環境を整え、経験や体験をさせる)
- ・教材や導入の工夫を行い、興味を持てる授業づくりを行う。
- ・家庭、保育所、学校で子どもたちの育てる環境を整える。



【6 グループ】

<悩みや課題>：保育所

- ・1対1では聞けるが、全体では聞けない。
- ・人の話を最後まで聞けない。
- ・集中力が続かない。
- ・目が合わない。
- ・聞こえているのに、聞き流している。



<悩みや課題>：小学校

- ・集団での話が聞けない。
- ・聞けない児童への対応をどうするか。
- ・給食放送等の聞き方。



<悩みや課題>：中学校

- ・一斉指導では入りづらい。
- ・話を聞く姿勢の指導。

<今後の取組>

- 保) 自分の意見をしっかりとと言える場、人の話を聞ける場と時間を設ける。
- 保) 絵本を読むなど、人の話に耳を傾ける。
- 保) 聞く時間を少しずつ長く、聞かせる人数も少しずつ多くしていく。
- 保) 子どもの話をじっくりと聞く。
- 保) 話し方の工夫をする。目が合ってから話していく。
- 小) 場の設定をする。
- 小) 保小中で連携して聞くための取組を進める。
- 小) 聞き方の指導を継続して行う。
- 小) 学校全体で再確認した共通の取組を進める。
- 中) 特別に支援が必要な子の特性に配慮した支援方法の確認と共有。
- 中) 保小で大切にしている「聞く」ことに対する取り組みを継続できるようにしたい。
- 中) 学校全体で統一した指導をしていく必要がある。

<共通点>

- ・保小中みんなで取り組む。
- ・聞いてもらう努力も必要。
- ・聞いてもらう経験の場を多く持つ。

【7グループ】

<子どもの興味を引くには>

- ・子どもの興味があること、楽しいことで聞きたくなるような環境づくりをする。
- ・子どもの気持ちに寄り添う。

<一斉指導の時の悩み>

- ・全体だと話を聞けない。
- ・どうやって注目させるとよいか。
- ・個に合った対応を行う必要がある。



<相手の話を聞くためには>

- ・信頼関係を築く努力をする。
- ・愛着関係を大切にすること。
- ・先生が怖いから聞くではなく、先生が好きだから聞こうという気持ちを持たせる。

<姿勢の保持>

- ・体力づくりを行う。(遊びの中で作っていく)

<個に合った対応>

- ・視覚支援を行う。(支援が必要な子ども以外にも分かりやすくする)
- ・持ってくるもの、準備物の写真などで工夫する。
- ・見て分かるようにする。…その子に寄り添う。

<集中力を持続させるには>

- ・興味付けを行う。
- ・話す側の工夫をする。(話し方、間の取り方、約束ごと、強弱 等)

<自己選択>

- ・自己決定できるような問い方をする必要もある。

<今後の取組・共通点>

- ・一人ひとりのタイプや正確に合わせる。
- ・メリハリをつける。話すポイントを絞る。



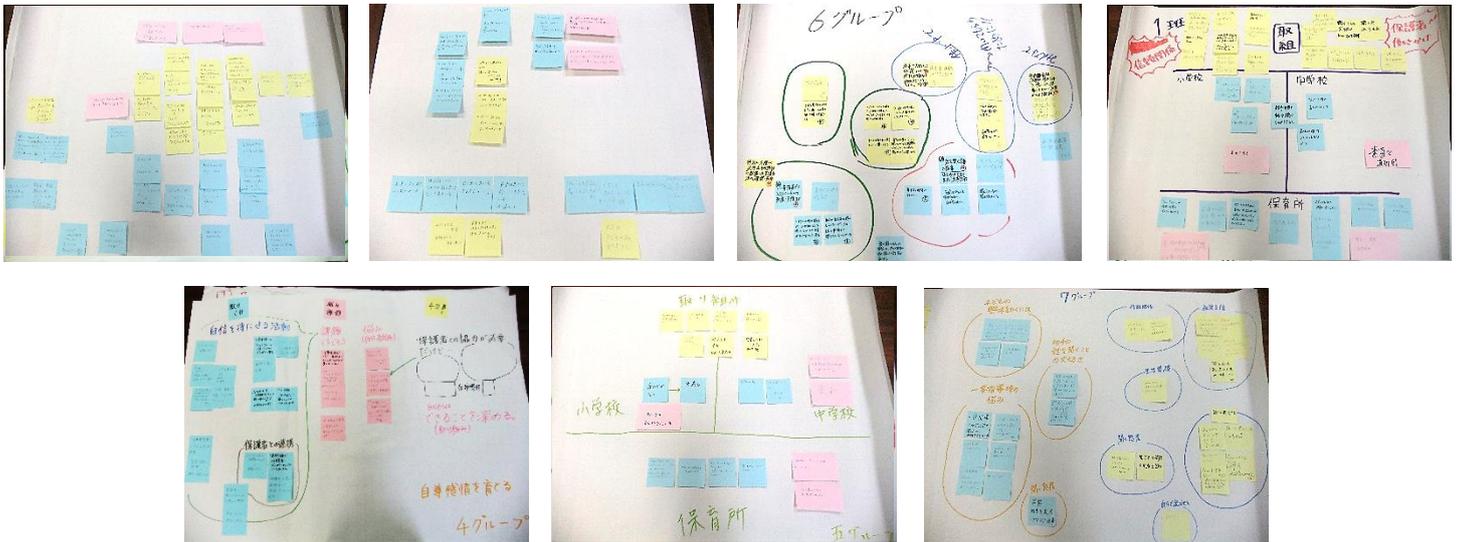
【大月町子育てプランの聞ける・聴ける子どもの育成に向けた保小中の取組】

聞ける・聴ける子どもにするために	
保育所	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせの継続 相手の方を見て聞く 聴き方「あいうえお」の取組
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 聞くことの意味理解 聞く姿勢の系統的な指導 反応を意識した聞く態度の指導
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 聞くことの意味を考える 相手意識を大切に話し方と聞き方の指導 相手に対する声かけの充実
共通点	<ul style="list-style-type: none"> 大人の聞く姿勢（受容と共感） 支援が必要な子どもへの支援＝支援が必要な子ども以外の子どもたちがあるとよい支援（環境配慮） 話し方のスキルアップ

各グループから出された意見から、今から取組めそうな内容を一覧にしてみました。

ここからまた、保小中で考え、確認し共通の取組のきっかけとなるようにしたいと思います。今年度の取組の柱となるものを再認識して、活動の参考にしていただければと思います。

【保小中連携協議会の足跡～チーム大月としての新たな一歩に～】



一枚の模造紙の中に、大月町の子どもたちに対する教職員の皆様の熱い『想い』が溢れています。もちろん、話をしたことがすぐにできる訳ではないかもしれませんが、この時間で共有したことが、『子どもたちの成長』に必ずつながると信じて、今できることから始めましょう。大人と子どもが一つになれる ～真のチーム大月～ を築きましょう！！